

## 朝宮茶有機栽培研究会の活動支援を通じた栽培面積の拡大

対象者 朝宮茶有機栽培研究会

### 【普及活動のねらい】

近年朝宮地域では、海外輸出を含めた有機栽培茶の需要拡大の動きを受けて、有機栽培茶生産を志向する農家が増加(令和3年現在12戸12ha)しています。しかし、それぞれの農家の販売先が異なるうえ、栽培技術もバラバラで、地域全体で有機農業に関する情報が共有できていない状況でした。そこで、有機栽培を志向する茶農家を中心に、信楽町茶業協会(以下「協会」という)や茶商、関係機関と連携して研究組織を設立し、有機栽培技術や有機JAS認証に関する情報を交換し、今後の有機茶づくりのあり方について検討を深めるとともに面積拡大を図っていくことをねらいとして、課題に取り組みました。

### 【普及活動の内容】

#### 病害防除展示ほ(以下「展示ほ」)の設置

昨年度に、農家から有機茶栽培の課題を聞き取った結果、4戸の農家から病害が問題との回答があったことから、有機JAS認証で散布が可能な銅剤による防除効果を実証する展示ほを2か所設置しました。

#### 朝宮茶有機栽培研究会(以下「研究会」)の開催

第1回研究会(11月)では、病害防除展示ほの結果や茶業指導所の研究成果報告の後に、昨年度課題となっていた茶商の研究会への参画を検討しました。

第2回研究会(12月)では、茶商2社が新たに参画する中、「有機栽培茶を活用した産地づくり」と題して、6次産業化プランナーによる講演会を開催しました。



第2回研究会の様子

### 【普及活動の成果】

展示ほでは、銅剤散布とせん枝の組み合わせにより病害が低減でき、実証結果については、第1回研究会において会員相互で共有されました。

第2回研究会の講演では、プランナーから有機茶の海外流通の現状や朝宮茶のPR方法について、数々の提言をいただき、今後の朝宮茶のブランド確立に向けて、検討すべき方向性が示されました。

また、研究会を通じ、仲間づくりが醸成されたこと等により、取組農家は1戸増え13戸に、面積も目標の12ha以上になることは確実となりました。

今後、プランナーから提案があった、海外輸出に対応出来る有機栽培茶を検討する機会や、有機茶サンプルの求評会、栽培技術向上を目指した研究発表会などの開催を予定しており、これらの活動を通じ朝宮地域での有機茶づくりの方向性を検討していきます。

当普及指導センターは今後も研究会活動を発展させ、朝宮茶のブランド確立に向けた取り組みを支援していきます。